

# 子ども達が取り組む河川環境保全活動から始まる地域づくり ～斐伊川・神戸川流域環境マップづくり～



島根県出雲市・雲南市・奥出雲町・飯南町  
特定非営利活動法人 しまね体験活動支援センター

手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

## ① 社会資本の概要

斐伊川水系斐伊川は、船通山（標高：1,143m）に源を発し、宍道湖～大橋川～中海～境水道を経て日本海に注ぐ、幹川流路延長 153km の一級河川です。斐伊川下流部にある宍道湖・中海は全国でも珍しい連結汽水湖を形成しており、冬場には多くの水鳥が飛来する日本有数の飛来地です。平成 17 年に



天井川で有名な斐伊川下流

は国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録され、平成 29 年には日本ジオパークにも認定されています。また、近年はコウノトリの営巣が 2 年連続確認され、斐伊川全域において大型水鳥の飛来地として注目を集めており、斐伊川流域において豊かな自然環境が着目されています。



河口付近で越冬するコハクチョウ

## ② 取組の背景、取組概要と創意・工夫

斐伊川流域は豊かで貴重な自然が今なお残されている環境にありますが、近年の子ども達は自然にふれる機会が減少しており、環境に対する興味や関心の低下が懸念されています。こうした中、ふるさと学習、環境学習の一環として、子ども達が河川の上流から河口までの流域全体で川の水質等の環境調査を実施することにより、自然体験不足の子ども達に生まれ育った川での体験を通じて、ふるさとの自

然を理解し環境に対する興味・関心を抱かせ、河川環境保全活動のきっかけを作ることを目的としています。また、体験した内容を HP で環境マップとして蓄積・公開することや、子ども達による成果発表会を行なうことで、流域住民の関心を向上させ、流域全体で川の環境保全について課題を共有化し、今後の地域づくりに活かしています。



河川調査



成果発表会



環境マップ報告書

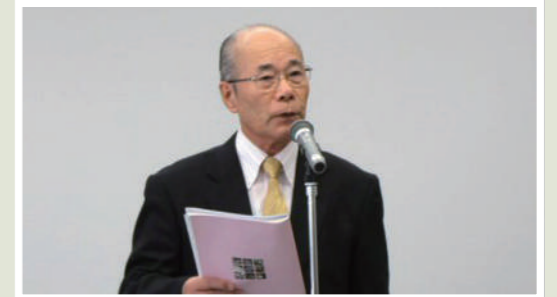
## ③ 活動の成果や波及効果等

近年、学校教育者の多忙な状況下において、河川が地域の環境に果たす役割を子供達に伝えることは非常に重要です。このため、学校での河川環境調査を指導する教員を対象とした指導者研修会を開催することによって、自らの体験も少ない教員の河川への関心を高めるとともに、指導力を向上させ質の高い河川環境調査が実施できています。また、河川調査を通じて学校と地域の協力関係が構築できており、これまで延べ 14,271 人の児童生徒が参加しています。

体験不足の子ども達が、ふるさとの川での河川調査体験を行うことで、川の生きものに対する関心が高まり、ふるさとを愛する心や河川環境保全に対する意識の向上が図られています。また、成果発表会を開催することで、子ども達の気づきや他校の取り組みを知り、河川調査や環境保全活動の質を高めるとともに、今後の参加校の活動に役立てています。

さらに、報告書やポスターを流域の学校・図書館・コミュニティセンター・公民館等へ配布することや、島根県の HP で調査結果を公表することで流域全体に河川環境の情報を発信することができています。その結果、上下流の一体感が生まれ、流域全体で川への関心が高まっています。

## ●● 喜びの声 ●●



### 受賞者

特定非営利活動法人 しまね体験活動支援センター  
理事長 青木 充之

### コメント

17年に渡って小・中・高校生と共に河川環境調査に励んできた取り組みが認められ、このような素晴らしい栄誉を受賞でき、今後の活動に大いに励みとなります。

### 活動の内容

- ・河川調査指導者研修会開催（5月）
- ・春・夏・秋の調査（水質・水生生物）（6～10月）
- ・河川環境調査成果発表会の開催（11月）
- ・学校・地域で調査の成果を報告（12月）
- ・県 HP の流域環境マップ（Web-GIS 地図）の作成と公開（2月）
- ・流域学校・図書館・公民館等へ報告書等の配布（2月）

### 活動の経緯

- 平成 14 年 島根県中山間地域研究センターリニューアルオープン記念事業第 1 号として、活動スタート
- 平成 19 年 しまね体験活動支援センター設立

### 所在地

島根県出雲市佐田町八幡原 109 番地

### 活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 しまね体験活動支援センター  
(090-7132-9981)

### 対象となる社会資本

斐伊川水系斐伊川・神戸川  
※管理者：国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編